

もしものときのために、備えあれば憂いなし。 ナイキでは「防災オフィス」をご提案。

ナイキでは快適で美しい空間づくりだけでなく、地震の際の“人命の安全確保”と“二次被害の防止”について考えた「防災オフィス」をご提案。

もしものときに役立つ防災・地震用品を用いたプランで、“備えあれば憂いなし”をかたちにします。



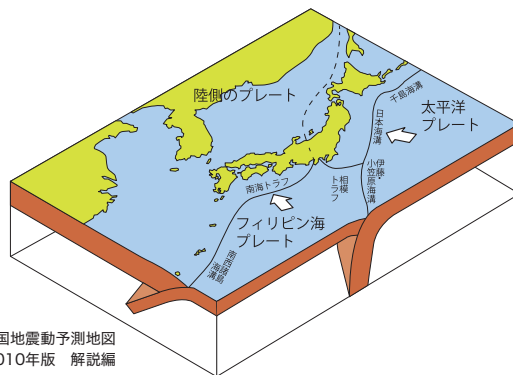
東日本大震災にて大きな被害を受けたオフィス

吸盤フック	424
移動防止対策用品	425
転倒防止連結バー	426
落下防止バー	426
転倒・落下防止対策用品	
.....	427~429
小型物置	430
中型物置	430
断熱物置	430
備蓄保管庫	431
蓄電池	431
メガホン(防滴型)	431
蓄光テープ	432
蓄光テーブル	432
蓄光パンフレットスタンド	432
蓄光記載台	432
蓄光電話台	432
蓄光新聞架	432
蓄光マガジンラック	432
レスキューベンチ	432
防災用ヘルメット	432
高輝度・長残光蓄光式ライン部材 (ルミセーフレックス)	433
高輝度・長残光蓄光式置敷マット (ルミセーフマット)	433
高輝度・長残光蓄光式床用ピクト サイン(ルミセーフピクト)	433
振動検知照明装置	433

地震対策はなぜ必要？

「天災は忘れたころにやってくる」の言葉通り、自然災害はいつか必ず起こります。

地球の表面は十数枚のプレート(岩盤)で覆われ、各プレートは少しずつ移動しています。日本は4つのプレートがぶつかり合う場所に位置するため、世界有数の地震国といわれています。震度7クラスの巨大地震への備えは、私たちにとって避けられない大きな課題。「地震と想定外の地震災害」について考え、しっかりと地震対策を行っておくことが防災につながります。



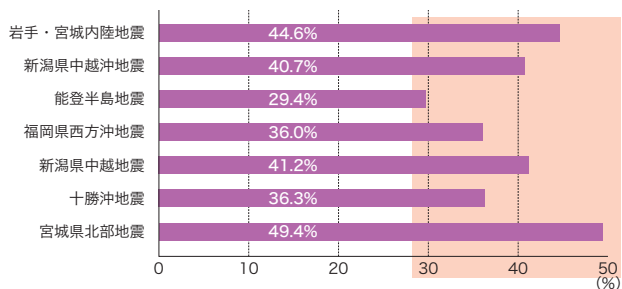
参考：地震調査研究推進本部 地震調査委員会全国地震動予測地図
2010年版 解説編

オフィスで起きた地震では、なにが危険？

家具類の転倒・落下・移動によるケガが多く、さらには出火が起きることもあります。

近年発生した地震でけがをした原因を調べてみると、約30~50%の人が家具類の転倒・落下・移動によるものでした。オフィスの場合、家具類の転倒・落下・移動は、直接当たってけがをするだけでなく、つまずいて転んだり、割れたガラスを踏んだり、避難通路をふさいだりするなど、さまざまな危険をもたらします。また、収納物が火気器具の上に落ちると火災が起きることもあり、大きな二次災害につながってしまいます。

■近年発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけがの割合



参考：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」